
西村の普通の日常

バッケル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

西村の普通の日常

【著者名】

ZZマーク

Z7980D

【作者名】

バッケル

【あらすじ】

普通少年西村の普通な日常の話そもそも西村とは誰か。それはみんなの心にこびり付く愛の化身

(前書き)

意味わからないです。

たぶん意味わからないです。

やあ、僕の名前は西村。

しつてたかい？

え？ しらない？ ジャア今知つてくれ。

僕は、六才の頃からボクサーになりたくて、我流でボクシングを極めたけど、いまいち自分に合わなくて三年でやめてしまった。

その後、趣味で相撲を始めてみたけど、

元々、小食気味だった僕は太れず、三ヶ月でやめてしまった。

さらに翌年から『新百一人一首 語り継がれるスピリッツ イズ
トウモロコシは永遠に大会』

に出場して自慢の持ちネタ

「指と脂は似ているよ うつぼーい」

を披露してみると、競技内容が全く違つ物だったので予選落ち。

昨年の大会で、自分にお笑いのセンスがない事を自負し、思い切つて犬を飼つてみたが、あまりの可愛がりっぷりに、さすがに犬もひいたらしく、いつの間にかいなくなつていた。

あの時はショックのあまり、ドッグフードを食べそつになつた事は今でも後悔している。

そして、二ヶ月すぎた頃・・・。

僕は、あのお方と運命的な出会いをした。

今日は、その時のことと詳しく話そう

いつも通り、僕は近所の自販機の下をのぞいていたとき、何かとぶつかってしまい、

何だろうと辺りを見回してみたが何もい、氣のせいだと思いつたのぞいていたら。

「謝らんか！」と聞こえた、ビックリしたので後ろを向くと、

そこには足があった、とてもなくでかい足が。

そう、いなかつたのではなく、でかすぎて見えなかつたのだ。

そこには白い服を着た露出がひどい大男がいた。

「まったく、お前はやくどけよ、コーラのめねーだろ。」

感じ悪いが僕は悟った、この人とは僕の運命の人だと。

・・・それから一年たつた。

あれからあの大男は見たことがない。

今思えば普通のサイズだったような気もしてきた。

ん？ここからの話の進展は無いのかつて？

何言つてるんだ君。

夢でも見てるのか？こんな普通の話で違う世界にいけるわけ無いじやないか。

こんな普通の人生でね・・・。

(後書き)

意味わからないでしょう。
そりゃそりでしちゃうね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7980d/>

西村の普通の日常

2011年10月4日18時46分発行